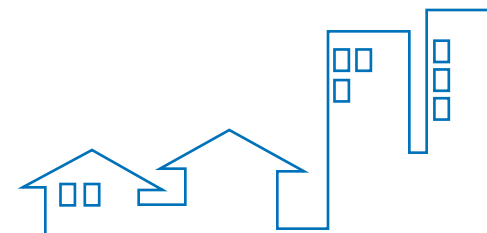


令和7年12月24日

資料3

鉄道事業者と地域の協働による地域 モビリティの刷新に関する検討会

滋賀県



国に求めること(その1)

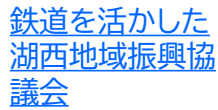
・滋賀県では鉄道の維持・活性化のために、利用促進に取り組んでいるが、**利便性の低さが利用促進の妨げ**となっている。

(Ex:**減便**、バリアフリー未整備、駅の無人化・・・など)

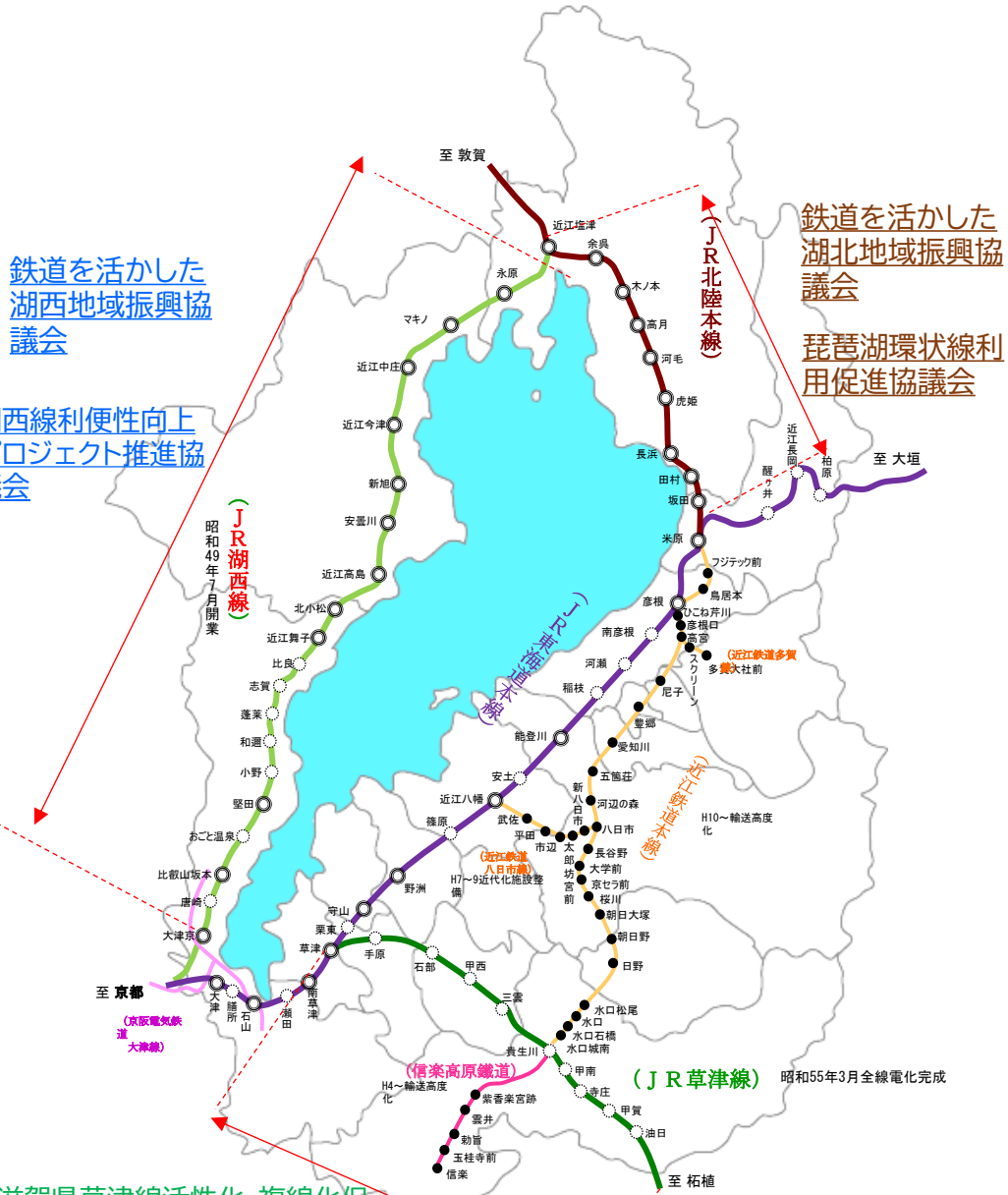


・**「利便性の向上により、利用を喚起する」という視点から、鉄道事業者への働きかけ、各種施策への反映をお願いしたい。**

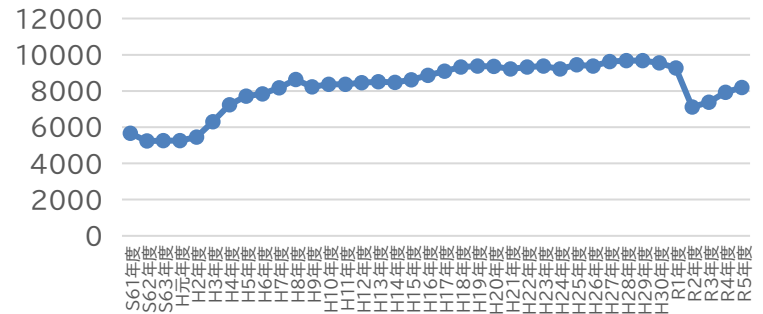
01-02 滋賀の公共交通の現状(県内路線状況)



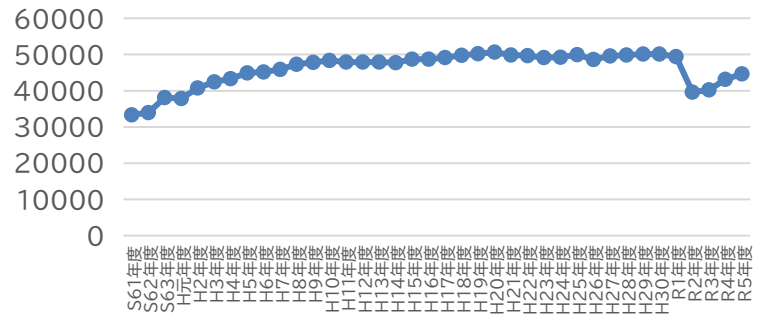
湖西線利便性向上
プロジェクト推進協
議会



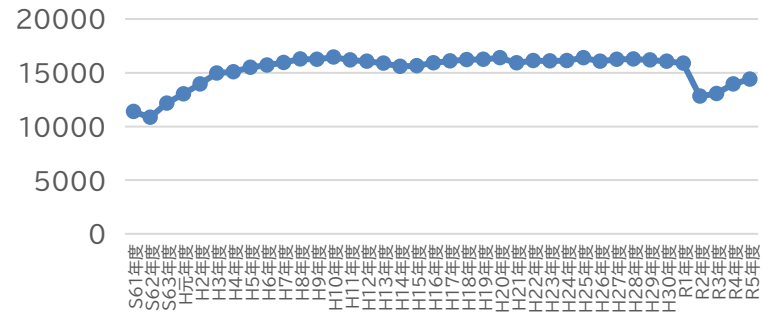
北陸線



湖西線



草津線



01-03 滋賀の公共交通の課題(JR線減便の状況)

JR線(JR西日本)の減便等により利便性の低下が発生している。

◎昼間時間帯の減便

◎始発の繰り下げ、終電の繰り上げ 等が発生

R3.3改正・R3.10改正・R4.3改正

昼間時間帯の減便
(運転区間の変更を含む)

北陸線(長浜～米原)
琵琶湖線(米原～草津)
湖西線(近江今津～近江舞子)
湖西線(近江舞子～堅田)
草津線(貴生川～草津)※平日のみ

R4.3改正・R5.3改正

草津線朝夕の減便
(運転区間の変更を含む)

草津→貴生川 夜2本減
貴生川→草津 夜2本減
貴生川→柘植 夜3本減
柘植→貴生川 朝2本減、夜1本減

R5.3改正

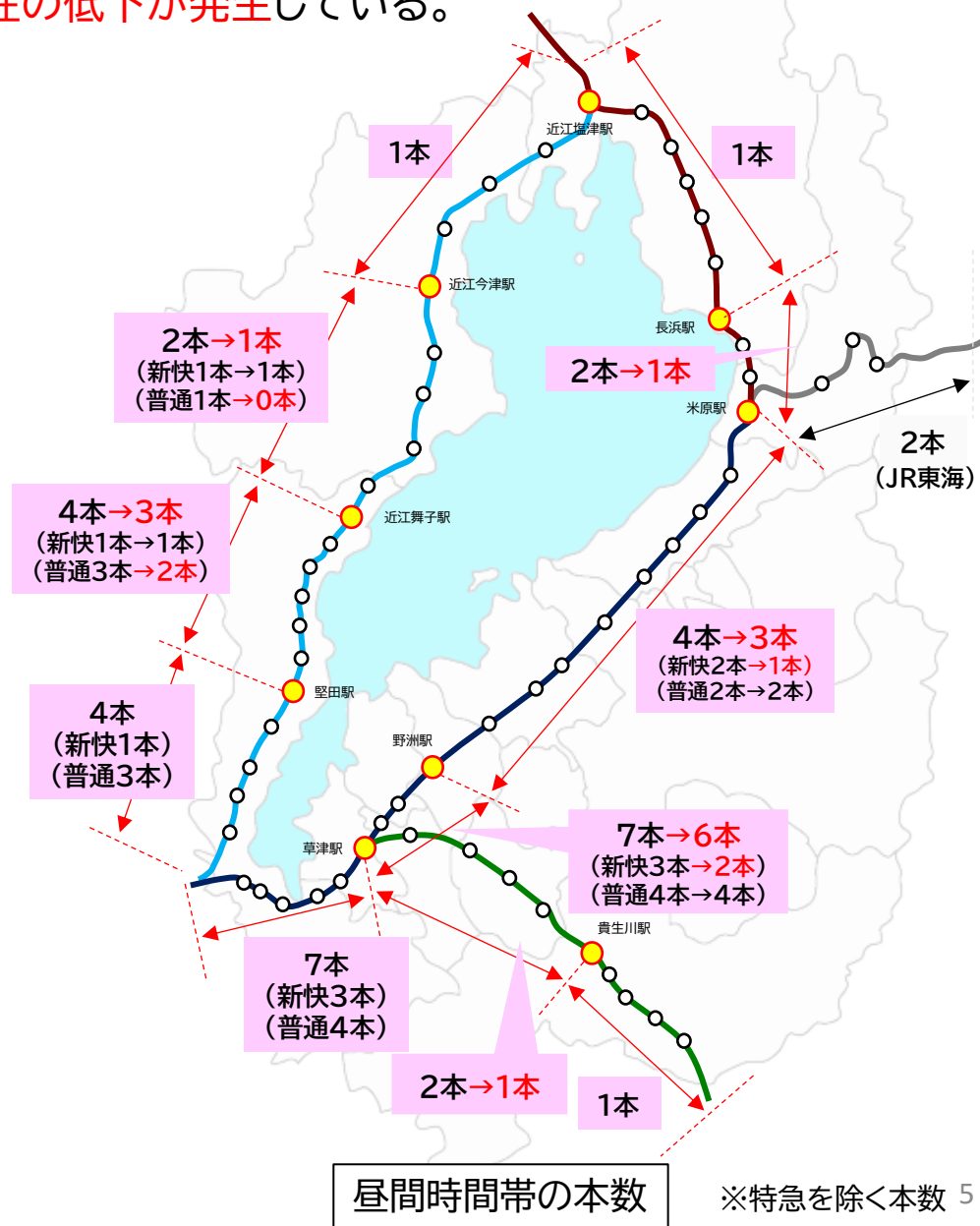
草津線の京都直通列車の減便
(運転区間の変更を含む)

朝の柘植発京都行(直通列車)1本を柘植発草津行に変更(京都直通列車1本減)

R3.3改正・R5.3改正

終電の繰り上げ

琵琶湖線 普通 米原行△20分、野洲行△17分
湖西線 普通 永原行△31分、近江今津行△19分
草津線 普通 柘植行△20分



01-04 滋賀の公共交通の課題(県政世論調査不満度)

県政世論調査における不満度調査において、公共交通に関する項目が15年連続でワースト1位

令和7年(2025年)8月19日に公表された
「滋賀県政世論調査 <速報>」の
「県政全体に対する満足度」調査の結果

「鉄道やバスなどの公共交通が整っている」と
感じない人の割合⇒67.7%

平成23年(2011年)の調査以来、公共交通
に関する項目が、15年連続でワースト

● 県民生活への満足度

各項目についての満足度を「感じる」、「どちらかといえば感じる」、「どちらかといえば感じない」、「感じない」、「わからない」の5段階で評価

◆ 満足度の高い分野（「感じる」と「どちらかといえば感じる」を答えた比率）

順位	項目	R7 比率	R6 比率【順位】
1	健康的な日常生活を送れていると感じますか。 ※満足度 7年連続1位	73.6%	78.4%【1】
2	琵琶湖や山といった身近な自然や環境が守られていると感じますか。	68.4%	75.9%【2】
3	必要な医療サービスを利用できる環境が整っていると 感じますか。	65.2%	67.6%【3】
4	犯罪や事故が少なく、安全・安心な生活が送れていると 感じますか。	61.3%	66.5%【4】
5	農山漁村が持つ美しい風景や生活文化が守られている と感じますか。	53.9%	58.8%【5】

◆ 不満度の高い分野（「感じない」と「どちらかといえば感じない」を答えた比率）

順位	項目	R7 比率	R6 比率【順位】
1	鉄道やバスなどの公共交通が整っていると 感じますか。 ※不満度 15年連続1位	67.7%	67.3%【1】
2	地球温暖化などへの対応が進んでいると感じますか。	58.0%	52.0%【2】
3	災害に対する備えが進んでいると感じますか。	52.1%	49.9%【4】
4	出産、子育て、介護などとも両立した柔軟な働き方が できる環境が整っていると 感じますか。	48.4%	49.5%【5】
5	滋賀県の魅力が発信されていると感じますか。	46.7%	50.4%【3】

出展) 第58回滋賀県世論調査(速報)

国に求めること(その2)

- ・鉄道をはじめとする地域交通は、地域環境の保全や地方創生など、国家的な課題解決に大きく寄与する重要な社会基盤である。

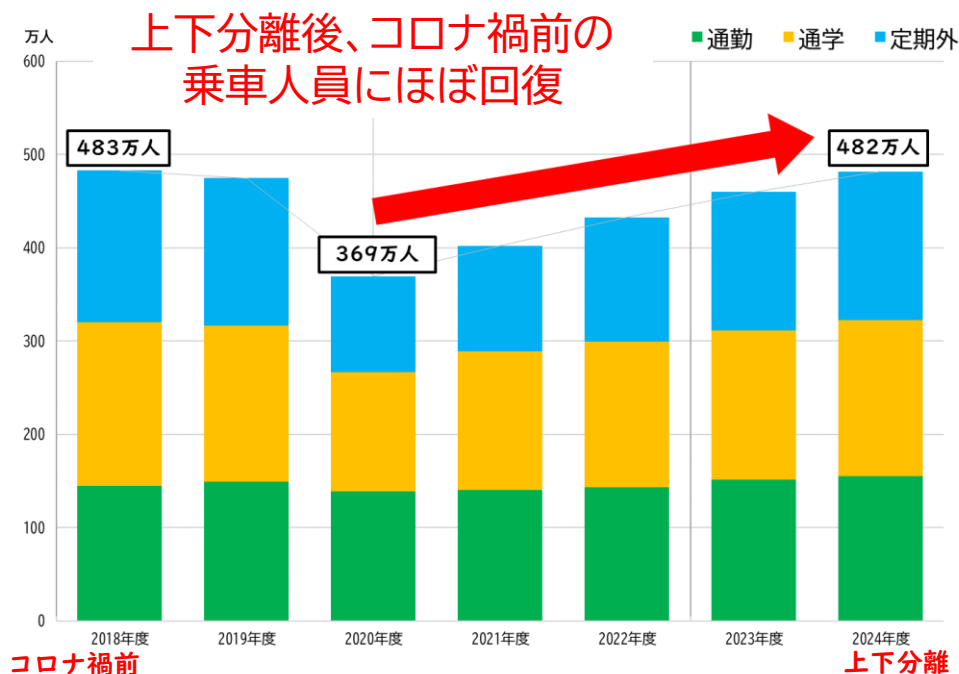


- ・地域交通を明確に「公共財」に位置付け、これを維持、さらに良くするための財源の創出や拡充を行い、地方への配分をお願いしたい。

02-02 近江鉄道線の現状・取組(2024年4月より公有民営化)

- 公有民営化初年度2024年度にコロナ禍前の輸送人員レベルに回復。2025年度もさらに増加。
- 新たなサービス開始による更なる利便性向上。幅広い年代層をターゲットとする需要の掘り起こし策。
- 沿線地域と他事業者が一体となった新たなイベント開催。沿線企業・学校との交流機会の創出。

近江鉄道線の輸送人員実績



①利便性とサービスの更なる向上

● 子ども・高齢者向け 割引パス



- ・春・夏休み実施
- ・1日10円で乗り放題



- ・沿線在住65歳以上の方
- ・パス提示で1乗車100円

● 2026年3月交通系ICカード(ICOCA)導入



②住民・地元団体・他事業者との連携拡充



- ・大人100円・子ども無料で1日乗り放題
- ・沿線各駅で住民・地元団体・企業が一体となり約50の地域イベント開催
- ・2025年度:2万4千人参加(昨年度比+5千人)



JR西日本協力による京都鉄博での近江鉄道車両展示



近江鉄道沿線企業意見交換会



駅待合室を活用した地元高校生によるカフェ運営

県民が「望む暮らしの姿」とは、また、
そのために必要な「移動のあり方」とはどのようなものか、
様々な対話の機会を設けて、公論熟議

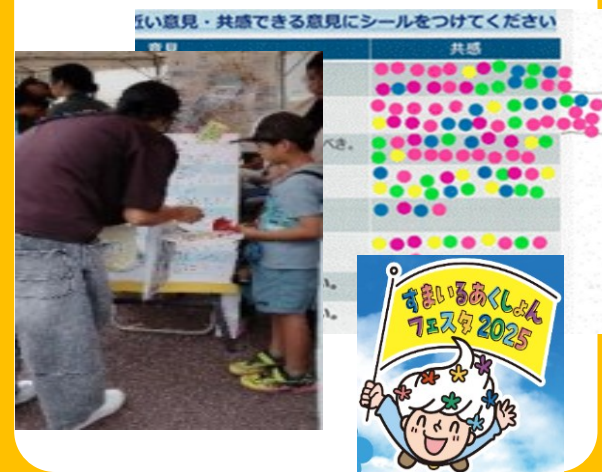
ワークショップ



フォーラム



お出かけトーク



今よりも充実した地域交通を望む声

「より良い暮らし」の実現に向けて

「滋賀地域交通計画」 の策定

- ・身近な移動手段が便利に
- ・使いやすい運賃で乗れる
- ・高齢になっても、車椅子でも使いやすく
- ・遊びにでかけたくなる

計画を実現する 財源・税

- ・既存予算の組み換え
- ・新たなスキーム等、国への要望
- ・事業者の努力
- ・新たな税

民公共創

公論熟議

目指す姿(ビジョン)と財源を一体的に検討